

件名	第1回平成の御車山利活用検討委員会 会議録		場 所
			高岡市役所5階 502会議室
年月日	平成30年6月26日(火) 15時00分～16時20分		
参加者	委員	10名	
	高岡市 産業振興部 観光交流課 生涯学習・文化財課	村田副市長(市長代理:冒頭挨拶のみ) 川尻部長 長井課長、宮崎係長、片岡主事 杉森課長(オブザーバー)	
内容	<p>《(1) 平成の御車山の概要について》</p> <p>事務局より説明。特に質疑なし。</p> <p>《(2) 『「平成の御車山」利活用に関する意見書 要約版』について》</p> <p>委員 長:利活用の基本方針として2点掲げられているが①観光と産業振興②教育面での「参加型」という大事なところに直結する部分である。この点について委員からの意見を聞きたい。</p> <p>A 委員:観光面から言うと、平成の御車山は貴重な観光資源だが、単体での商品づくりは難しい。高岡市には歴史・文化・伝統工芸などさまざまな観光資源があるので、うまく組み合わせて活用すべきである。</p> <p>B 委員:平成の御車山の制作にあたっては、高岡の優れた技術を持って制作されたが、併せて若い技術者の育成が目的でもあった。金工、漆工、木工、和紙、いわゆる工芸に使うようなすべての素材が一つの山車に集約されている素晴らしさと、それを組み上げていく職人の阿吽の呼吸の素晴らしさを、単に工芸品としてだけでなく祭りに使えるものとして全国に発信すべきである。</p> <p>C 委員:平成の御車山を祭りとして市民の皆様に触れあってもらうことは可能なのか。</p> <p>委員 長:祭りとして定着させるには非常に時間がかかる。現実的に今の7基に入りこむことは無理がある。</p> <p>D 委員:安全性の検証については、安全性は最高の状態で完成されている。ただし実際には十分に動作の確認(回転等も含む)はしていないので、この利活用検討委員会で検証する必要がある。基本的には、今ある本物の御車山7基と変わらないように作ってある。そういった意味では安全性は確保されている。</p> <p>委員 長:文化財の保存・修復等の産業面について、高岡市として何か意見はあるか。</p> <p>川尻部長:高岡地域文化財等修理協会の当初の目的は、高岡の技術の水準の高さを持てば、全国の文化財を修理できるのではないかとということから始まった。この修理協会に期待するところは、全国の修理ができる点と、それを若い人と一緒にやることによって、高岡に技術が受け継がれるという点。地場産業センターに事務局があり、全国での修理の需要の調査もしているはずである。そういう意味では、文化財修理が産業につながることを期待している。</p> <p>E 委員:運営組織づくりについて、この山車は何が何でも自分たちで守っていかなくてはならないという意識が必要。誰か責任を持つ人がいなくてははいけない。</p> <p>委員 長:確かに、漠然と「市民全体のものだ」ではダメ。お祭りとして成立するには、誰か責任者が必要かと思う(何百年後か、成立するかしないかも分からないが)。単発</p>		

のイベントから始めるのがよいのではないか。

E 委員：実際に山車を動かすなら 20 名前後は必要。御車山で不都合に感じていることを直しながらやればよい。お囃子も現代のもので考えればよいのでは。平成は平成らしく、伝統にこだわる必要はない。そうやって皆の力を合わせて作っていけばよい。

F 委員：経済効果という観点から言うと、いわゆる文化財は経済につながっている。利活用については、すぐに結論を出せるものではないが、どこかに出して動かすべき。修理業についても、素晴らしい技術があるのだから、例えば山車が全国にどれだけあるのか調べ、パンフレットを作り、全国の山車を修理できることをアピールするなどをすべき。もう少しスケジュールを立て PR していかないと、経済にはつながらない。

G 委員：曳くには時間がかかるのは分かる。けが人が出ないようにしっかり準備すべき。教育面については、今のパンフレットは少し難しい内容なので、小学生でも分かるような簡単なものを作ってはどうか。写生大会などの教育プログラムに組み込むのもよいのでは。また、曳くことに拘らず、行事ごと（例えば七夕など）に合わせて展示すれば注目も集まるのではないか。新しいことにチャレンジすべき。

H 委員：平成の御車山は産業観光的な観点からのアプローチがよい。特に最近では銅器、漆器に携わる職人さんが脚光を浴びているので、まさしく職人さんがこれを作ってきた、高岡のものづくりの DNA を伝えていくという切り口がよいのではないか。最近では体験型が人気なため、花傘のミニチュア版を作れるとか、法被を着て実際に曳いているような写真が撮れるとか、そういった点からものづくりのまちを PR していったらよい。

I 委員：平成の御車山の制作過程を、職人さんが自分の全てを懸けて作ってきたのを見てきたので、それを皆さんに見てほしいし、全国、世界に高岡の伝統産業を発信してほしい。また、産業面を広げるのも大事だが、高岡市民の力を結集して作った山車なのだから、市民が楽しめるイベントがあればよい。市民参加型のイベントがあれば、市民ももっと携わっていける。

### 《(3) 委員会検討内容及び年間スケジュール（案）について》

#### 《(4) 第 1 回委員会検討事項》

- ① 高岡御車山会館内展示中の利活用について
- ② 安全性の検証について
- ③ 運営組織づくり・曳手の育成について

(3)(4)続けて事務局より説明。

委員 長：乗車体験について、親と子が一緒に乗るのか、乗れるのは子どもだけなのか、検討委員会で決めてよいのであれば一緒に乗れた方がよいだろう。また、安全性の検証とは、実際に曳いてみるということではないか。検証の際、心柱や鉾留への影響は。

D 委員：心柱が折れたり、鉾留が落ちてきたりすることはない。

委員 長：動かす際は、山町筋の協力も視野にいれてはどうか。また、運営組織づくりについても、中心となる人物を決める必要がある。お囃子についても早めに決める必要がある。パンフレットの作成というのは何か計画はあるのか。

事務局：分かりやすいものを作るというのは一つ重要なファクターになると考えている。ち

らし一枚でも十分 PR になると思うので、そういったものは検討している。

委員 長：安全性の検証の日程は。

事 務 局：第 2 回委員会を 10 月下旬開催としており、この間に検証を予定している。具体的な日程については、地元や関係機関との調整が必要なため、今の時点では決まっていない。決まり次第お知らせする。

委員 長：今回の意見のまとめや安全性の検証結果を踏まえて、次の委員会を迎えたい。